



N.S.ニュース速報A

NSDAP/AO : PO Box 6414

Lincoln NE 68506 USA

www.nsdapao.org

#1141

26.01.2025 (136)

悪の天才の教育

ゲルハルト・ラウク著

パート7

細胞とネットワーク

セキュリティ上の理由から、セル方式を厳格に守っている。

しかし、孤独な細胞リーダー、アルミンはこれを回避する方法を見つけた。NPDの青年支部が主催した聖火行進に参加したのだ。参加者は150人ほどだった。彼は叫んだ：AOは後方へ！（NSDAP/AO、あるいは単にAOは、我々の組織の非常に長いドイツ語名の略称である）。

彼は、私たちの仲間がデモ全体の3分の1を占めていることを発見した！人脈ができた。大規模なキャンペーンは大成功を収めた。

複数のチームが大都市の繁華街でさえ、一晩で何百枚ものポスターで飽和状態にした。トランシーバーを持った見張り番が通りの端に配置された。2つのチームが通りの両側を担当した。翌朝はいつも大騒動だった。

逮捕者が出ることもあった。政権は勝利を宣言した。しかし、その光景は数週間後に繰り返された。

これはかなり長い間続いた。しかし、やがて物事は終わるべくして終わった。

それにもかかわらず、長期的な結果として、伝統的な意味でのスモールセルと、より大規模な「セルネットワーク」の両方が存在することになった。

た。前者には防衛的な利点があり、後者には攻撃的な利点があった。

間違いの喜劇

私はプロジェクトリーダーだった。

任務は、複数の中立国を経由して敵国の最終目的地まで物資を運ぶことだった。

いくつかのチームが積極的に参加した。通常、AチームはA言語、BチームはB言語、CチームはC言語を話す。

運がよければ、互いに直接接触するチーム同士が、各チームの少なくとも1人のメンバーが理解できる共通言語をすぐに発見することができた。

運が悪ければ、連絡係と通訳をやらされた。

これは、私がツイていなかったときのひとつだ。

この場合、私たちは安全に言うことができる：コミュニケーションの失敗である。

チームAが質問する。

私は翻訳する。

チームBが質問に答える。

私は翻訳する。

チームAはその答えを却下する。

私は翻訳する。

Bチームは答えが正しいと主張する。

私は翻訳する。

チームAは、その答えは明らかに間違っていると言う。

私は訳す。でも、なぜその答えが正しいのかも聞く。

チームBは、このような理由から、答えは明らかに正しいと説明する。

止まれ！

私はすぐに問題点を把握した！私は両方のメンタリティーを理解し、ここで何が起きているのかを正確に把握するのに十分すぎるほどの経験を積んでいる。- だから私は両チームにすべてを説明した。両チームとも私の説明に耳を傾け、同意してうなずく。これですべてが明らかになった。

次に何が起こるのか？

最初のステップに戻るんだ！

なぜですか？

チームAの頭には単純に沈まない！

彼らにとっては、正解が本当に正しいとは考えられないのだ。もし誰かが、「 $1+1=2$ は普遍的な真理ではない」と言ったとしよう。「アメリカでは $1+1=2$ かもしれないが、ヨーロッパでは $1+1=3$ 、アジアでは $1+1=4$ だ。 - 明らかに間違っている、とあなたは言う！しかし、あなたは絶対に、絶対にそう確信しているのだろうか？

実は、 $1+1=2$ が常に正しいとは限らない！もし番号体系が10を基準にしていなかったらどうだろう！例えば、2を基準にした数え方では、 $1+1=10$ となる！

別の例を挙げよう：「イエス=はい、ノー=いいえ。しかし、そうだろうか？後でわかったことだが、アジアでは「イエス」は必ずしも西洋的な意味での「イエス」を意味しない。3つの異なる意味がある：まず、単に礼儀正しいという意味での「イエス」。第二に、「はい、あなたの言いたいことはわかりました」という意味での「はい」。第三に、“はい、私もそう思います！”という意味での“はい”。

しかし、私たちの苦難の物語はまだ続く。

複数の中立国を通過する途中で、私は不審な2人組を発見した。その後、駐車場で私たちの車の横にひざまづきながら、遠距離から私たちの写真を撮っている人がいるのに気づいた。

ついに敵国との重要な国境にたどり着いたとき、真実の瞬間が訪れる。私たちは通過する！

しかし、同僚を特定するために通された可能性はまだある。

荷物は別の保管場所に運ばれる。私はその一部を持っていく。

その後、経済的な制約から、私は通常よりも大きなリスクを負わざるを得なくなった。私は自分の分の積荷で逮捕された。騒ぎを起こすには十分な量だが、私たちに大きな損害を与えるほどではない。

警察署で前述の不審な2人組に会った。そのうちの一人が、私たちを尾行するのは“子供の遊び”だったと言う。私は最悪の事態を恐れている。

でもラッキーだった。逮捕されたのは私だけ。

もちろん、警察は他の人たちの家や事務所を搜索するけど、何も見つか

らない。身内の身柄も拘束されない！

監視チームは我々を見失ったのかもしれない。単に怠慢になり、後の襲撃で物資を押収して逮捕しようと考えたのかもしれない.....事実上、彼らのミスと私たちのミスが釣り合っていた！

その結果、一人の男、つまり私が数カ月間刑務所で過ごすことになり、物資の許容範囲内を失うことになった。物資の大部分は押収を免れ、有効に使われる。このラウンドは我々の勝利だ。[ホテル・ワン、ホテル・ツー、司法ゲームショウ#1を参照。]

短い刑期でさえ価値がある。勉強になる。ずっと後になって、私たちは長期にわたる筋金入りの活動家のリーダーで、服役経験のない者を疑うようになった。

特に覚えているのは（エバルト）、これが事実だと判明したケースだ。

でも、私はまだ幸運だ。初期の頃は、まだそれほど真剣に受け止められていなかった。刑期は一般的に数カ月だ。その後、私たちが真剣に受け止められるようになれば、刑期は数年になる。後に“運動の法的部門”の支配的人物となるミヒヤエル・キューネンは、思想犯罪のためだけに、成人してからの半生を刑務所で過ごした！

クルトという名の同志はこう言った：刑務所のない人間は、傷のない人間と同じだ！

初めての投獄

最初の国営高級ホテルは厳しかったが、同情的だった。私は南米の小さなレジスタンスの旗を壁に飾ることを許され、レジスタンスの文献を部屋に置くことも許された。ホテルの従業員たちは、親しげにおしゃべりに来てくれた。

初めてベルボーイにエスコートされたときのことをよく覚えている。彼は困惑した表情でこう言った：君はここの人間じゃないのか？

私が説明を始めると、彼は遮った：はい、新聞であなたのことを読んだのを覚えています！スタッフ全員が私を名誉あるゲストとして扱ってくれた。明らかに、私には多くのファンがいた。

ある夜、私は窓際のテーブルの上に立っていた。星が見たかったからだ。係員が部屋に入ってきて、何をしているのかと尋ねた。私は彼に言っ

た。彼が窓を点検している間、私はドアに向かった。楽しいことが大好きな私は、ホールに出てドアを閉め、彼を部屋に閉じ込めようと考えた！冗談のつもりで。しかし、それはやめた。雇い主を怒らせるのはよくない。

ある時、来客が私に一枚の紙をこっそり渡した。私は予想もしていなかったもので、それを床に落としてしまった。これは気まずかった。どうすればいいのだろうか？幸いなことに、その訪問を監督していたホテルのスタッフが予想外のことをしてくれた。それを取り上げて私たちに叱るのではなく、ただ拾って私に渡してくれたのだ！

私は休暇を有効に使った。私はNSDAP/AOの背後にある基本的な概念を説明する小冊子を書いた。*Die NSDAP/AO: Strategie, Propaganda und Organisation.*(NSDAP/AO: 戦略、プロパガンダ、組織)。英語版は出版されなかった。しかし、後に『NSDAP/AO入門: 戦いは続く!』と題する別の小冊子を英語版とドイツ語版の両方で出版した)

軒目のホテルは違った。すべて没収された。でもチェックアウトの時に返してもらったよ。

皮肉なことに、経営陣は明らかに同情的ではなかったが、宿泊客のルールは概して最初のホテルよりずっと緩やかだった。

例えば、「ロビー」のようなものがあった。基本的にはテレビのあるコミュニティルームだ。私たち宿泊客は毎日2、3時間そこでテレビを見たり、トランプをしたり、ただおしゃべりをしたりした。

初めて行ったとき、スタッフの一人がやってきて、手紙の束を私に手渡した。

困惑した他の客の一人が尋ねた：なぜ彼にすべての郵便物を渡したのですか？

返事はこうだ：そんなことはしていない。

最初は自分の中に閉じこもっていた。

そんなある日、別のテーブルでトランプに興じていた一人が私を見て、何気なく尋ねた：殺人？

私は微笑み、首を振り、ノーと答えた！

またある時、テレビで刑務所映画が放映されていた。ゲストの一人が、この状況ではふさわしくないとコメントした。他の客も同意した。誰かがチャンネルを変えた。

あらゆる困難を乗り越えて

釈放から数カ月後、私は同じような企画をコーディネートする。今度こそ、相手は準備万端だ。しかし、こちらも準備は万端だ。

私はチームリーダーのウーヴェと、敵対する標的国ドイツとの国境に近い中立国デンマークで会った。彼は、大規模な監視体制が敷かれていることを教えてくれた。

私は彼の車に乗り込み、とにかく国境越えに向かって走り始めた。ゲートに到着する数メートル手前で、彼は振り返り、踏切から走り去った。辺りを見回すと、国境を越えた向こう側から6台のノーマークの車が飛び出してくるのが見えた。

これらの車は、国境と平行に走る道を走る私たちの後をついてくる。そして私たちは停車し、外に出て、国境の方向にある森の中に入っていく。重要な情報交換は、国境からほんの数メートルしか離れていないこの森の中で行われる。私たちが歩き終わると、夕暮れの中で懐中電灯が明滅し、道路から私たちに近づいてくるのが見えた。私たちは車に戻り、その場を離れ、後に分かれた。

その後、別の中立国であるイギリスへ一人で向かうと、国境で止められた。警察から、アメリカの内務大臣に相当する人物、つまり内務大臣が自ら私を止めるよう命じたと告げられた。私は自費で自発的に出国することに同意するが、電話をかける許可を求める。許可された。

警察立ち会いのもと、私はこの国の同盟グループのリーダーであるマイケルに電話をかけ、状況を説明し、出発予定地で落ち合うよう頼んだ。私の費用負担で次の目的地まで彼を連れて行くと申し出る。彼は同意する。

私の電話の後、警察官は隣の部屋に呼ばれた。戻ってきた彼は、これ以上電話をかけることは許されないと私に告げた。

マイケルに監視のすさまじさを説明すると、彼は私を信じていないことがわかる。彼は機転を利かせて、ここは彼の国であり、ここで何年も経験を積んでいるから、警察がここで何をし、何をしないかを知っているのだと説明してくれた！

それは十分に理解している。しかし、今回の状況は、彼が過去に経験したこととはまったく違うものであることを納得させなければならない。そこで私は3人の人物を指さし、その人たちの顔を覚えておくように頼ん

だ。彼は半信半疑だったが、同意した。

私はこのような経験を、特に政治活動家と弁護士との間で何度もしてきた。政府は私たちに異なるルールを適用する！

その後1週間ほどの間に、私たち2人は20人以上の監視員と6台以上の車両を合理的な疑いの余地なく特定した。

私たちはそれをゲームにさえしている。

私たちは向かいのレストランの窓から双眼鏡で私たちを見ている彼らに気づかないふりをする。そしてその旅館に入り、私は怪しげな電話をかけ、私たちは急いで暗い路地に入った。私たちは彼らが私たちの後を追ってきているのを確認し、なんとか彼らを見失うことに成功した。雨の中、私たちを見つけようと何時間も走り回る彼らを眺める。

時には違うアプローチをとることもある。鉄道のホームであまりにも見慣れた顔を見かけると、私は人ごみの中を上へ下へと歩き、まるで誰かを探しているかのように一人一人を注意深く観察する。たいていの人は私を警察官だと思うだろう。しかし、監視員は緊張する。

私たちは1週間ほど、国境沿いの小さな町を次から次へと訪れる。同じ顔、同じ車を何度も見る。

マイケルは最後に私を見てこう叫んだ：家に帰って、この目で見たことを仲間に話しても信じてもらえないだろう！

私自身の仕事はまだ終わっていない。

監視チームを消耗させた後、私は国境地帯から撤退した。彼らは私が撤退することを察知し、ようやく休息を取れることを喜んでいる！ガードは固い。そこで私が動く！

私は、中立国であるベルギーに気づかれずに潜入することに成功した。そこからまたイギリスへの入国を試みる。しかし、失敗した。また追い出された。1カ月以内に2度目だ。私はベルギーに戻ることを余儀なくされた。

その警察は明らかに私が来ることを知っている。だから、到着と同時に逮捕されることを期待している

そして会話は次のようになる：

警察官こちらへどうぞ。

私：私は逮捕されるのですか？

警察官いいえ、ここで何をしているのか知りたいだけです。

私： ここには美しい教会があるそうですね。見に来ました。

警察官 私たちはあなたが誰だか知っています。

私はただ、情報と資金を持ったクーリエが到着するのを待っているだけです。あなたの国で活動するつもりはまったくありません。どうしてもとおっしゃるなら別ですが、その場合は電話一本で、車いっぱいの活動家がすぐに駆けつけてきますよ。

警察官 いや、そんなことはするな！いいか、私は君の動向を毎日首都に報告するよう命令されているんだ。

私： 安い宿知りませんか？資金がないんだ。

警察官 実はこの近くにホテルがあるんです。オーナーもあなたと同じ考えです。ずっと会いたかったんだけど、口実がなかったんだ。そこで君を紹介して、事情を説明しよう。君の友達が金を持って来るまで、タダで泊めてくれると思うよ」。

私： 良さそうだね！

私たちはそうしている。お互いにメリットがある。私にはいい場所があるし、彼は私を監視できる。彼は毎日私を訪ねてくる。一緒にトラピストビールを飲む。私は彼に近況を報告し、私たちは楽しくおしゃべりする。彼は首都に報告する。ある日、彼は私をドライブに誘った。彼は途中、教会に立ち寄る。

この警察官は、私たちのことなど気にもかけていないことを明らかにしている。しかし、彼は対戦相手を憎んでいる！彼は私たちの邪魔をすることで、私たちの敵に好意を持つことを望んでいない！

そしてついに、翌日隣国の空港、つまりルクセンブルクから出発する便の座席を予約したと報告できる日がやってきた。

そして彼は私を驚かせた。私が車で送ろう！そうすれば、私があなたを飛行機に乗せたと上司に報告できる。交通費も節約できる

喜んで同意する。

その晩、私は最後のお金を豪華な食事に使った。彼が約束を守ってくれることを願う。

彼はそれを預かる。私は20セントをポケットに入れてアメリカに戻った。そのお金で友人に電話して迎えに来てもらう。帰国の最後の足となるお金を受け取るまで、私は彼の家に滞在する。

相手の猛烈な努力にもかかわらず、私たちは人的・物的損失ゼロでプロ

ジェクトを完了させた。



NS KAMPFRUF
KAMPFRUF DER NATIONALSOZIALISTISCHEN DEUTSCHEN ARBEITERPARTEI AUSLANDS- UND AUFBAUORGANISATION

Nummer 104 Erschienen 1973 28. April 2017 02:06

Der Kampf geht weiter !

Seitung Hitler nach der Kapitulation der Wehrmacht am 8. Mai 1945 ist die antisemitische Bewegung wieder als je zuvor in der Hochkonjunktur. Und zwar nicht nur in Deutschland, sondern auf globaler Ebene!
Menschen von Skandinavien, Vorkriegs-, Vorkriegs- und Vorkriegsleben haben nicht umsonst, das Kreuz der goldenen Haken umarmt hoch geliebten Führer Adolf Hitler zu entdecken.

Alle Nationalsozialisten sind weniger antisemitische Juden- und Rassenhassern als Hitler ein Schüler an Kampf um die Erhaltung unserer weißen Völker.
Die Bewegung ist zwar wieder geworden, aber die Größe des hochgeliebten Führers ist heute noch viel größer als in der Vergangenheit.

Ein unvermeidliches Ergebnis ist allenfalls, den Völkern - gegen alle weißen Völker () zu helfen, dass Mittel und Erziehung, Überlebens- und Rassenbewusstsein.

Ob "legal" oder "illegal", ob im Wahlkampf oder im Brautwerbung, ob im Propagandakrieg, bewacht oder auf einem Schulhof, andere Art jeder Nationalsozialisten hat seine Pflicht!
Hitl Hitler!
Gottfried Lauth



TROTZ VERBOT NICHT TOT!



N.S.ニュース速報A
www.nsdapao.org
#1005 19.08.2022 (133)
NSDAP/AO: PO Box 6414 - Lincoln NE 68506 - USA

フロントレポート
モリーへのインタビュー

第3部

NSK: 現在のプロジェクトは、明らかに哲学的で、アートに関連したものですね。

このような話題が政治に与える影響について、あなたの考えをお聞かせください。

モリーです。フォトギャラリーの更新は続けていますが、主にAdolf Hitler and the Army of Mankind (www.mourningthecent.com/truth.htm)に集中して取り組んでいきます。現在21ページですが、まだまだやるべきことがたくさんあります。第二次世界大戦の勃発は、まさに情報の地獄界です。1つのことについて情報を探しても、さらに2つほど調べたいことが出てくる。まるで、埋も




the **NEW ORDER**
Number 176 (2022) Founded 1973 April 26, 2022 02:06

The Fight Goes On !

Seven years after the capitulation of the Wehrmacht on May 8, 1945, the postwar National Socialist movement is stronger than ever not only in Germany, but throughout Europe.

Decades of mass murder, expulsion, persecution, and defamation have not sufficed to destroy the seed of the brilliant idea of our much loved Führer Adolf Hitler.

All National Socialists and other racially-aware entrepreneurs and racial kinemen fight side by side for the preservation of our White folks.

The movement has indeed become stronger, but the danger of biological folk death is also much greater today than in the past.

The desperate enemy is in the process of committing genocide against all White folks. His means are non-White immigration, culture denation, and non-winning.

Whether "legal" or "illegal", whether in election battle or street battle, whether armed with propaganda material or on a battlefield of a different kind every National Socialist must do his duty!
Hitl Hitler!
Gottfried Lauth



TROTZ VERBOT NICHT TOT!

NSDAP/AOは世界最大です 国家社会主義プロパガンダサプライヤー！

多くの言語での印刷物およびオンライン定期刊行物
多くの言語の何百冊もの本
多くの言語の何百ものウェブサイト



BOOKS - Translated from the Third Reich Originals!
www.third-reich-books.com



NSDAP/AO
Fight Back!

nsdapao.org
Contact us to find out how YOU can help!